
102. 精神科救急トリアージ&スクリーニング尺度の臨床適用に関する観察研究

研究の概要

地域生活を営む方が急に容態を悪くする際、執急外来を利用することは決して珍しいことではありません。危急の際に速やかに医療機関を利用できることは安心して地域生活を営める根拠となります。精神科疾患により医療機関にかかっている患者数は、平成29年には400万人を超えており、精神心理的にも差し迫った状態で総合病院の救急外来を受診する方も一定程度おられます。問題として、一般救急外来に勤務する医療従事者が、精神科的な救急状態に詳しいわけではないことがあげられます。このため、適切な治療を受けるためのギャップが生じていると考えられます。

研究の目的と方法

従来より、当院では救命救急・集中治療部と精神科が協力して診療にあたることが多く、その際に、厚生労働科学研究(精神科救急および急性期医療の質向上に関する政策研究H29・精神一般-002)にて開発された、精神科救急症例に関する緊急度と類型判断を行えるツールを用いることで、一般救急医療従事者の判断の適否を検討いたします。ツールによる判断に対して、精神科医が下した判断を基準にして妥当性を確認します。

本研究の参加について

後ろ向きの観察研究であり、対象患者様のデータを使用させていただきます。

調査する内容

当院救急外来を受診された方の中で、救急外来初療医師が、精神心理的な問題で精神科医の対応が必要と判断した方 について病名や転帰などを調査します。

調査期間

調査対象期間：令和2年8月1日～令和3年3月31日まで

研究実施期間：倫理委員会承認後～令和4年3月31日まで

研究成果の発表

第29回日本精神科救急学会で発表いたします。

研究代表者

国立病院機構熊本医療センター 精神科 副部長 橋本聡

当院における研究責任者

国立病院機構熊本医療センター 精神科 副部長 橋本聡

問い合わせ先

国立病院機構熊本医療センター 精神科 副部長 橋本聡

TEL: 096-353-6501